

## 「学生ボランティア活動体験レポート」

大学名	明星大学
団体名	明星大学音楽ボランティアサークル Freedom music
作成者（所属学部学科・氏名）	教育学部教育学科中村有伺

タイトル：元氣と笑顔を届ける音楽ボランティア

音楽ボランティアは誰でも行う事ができ、ボランティアをしている側もされている側も一緒に楽しめるところが良さであると考えます。そして、私はその音楽ボランティアを通して「音楽の持つ力の大きさ」と「関わることの大切さ」を学んだ。

「音楽ボランティア」という言葉を聞いても何のことかわからない人が多いだろう。音楽ボランティアとは、音楽に関することで元氣や笑顔を届けるという心の面でのケアを行うボランティアのことである。具体的には演奏、楽器作り体験、音楽を使ったレクリエーションなどを行っている。そのどこがボランティアなのかというような意見もあると思う。音楽ボランティア団体と音楽団体との違う所は、自分たちのやりたいことよりも、何を求められているかを軸として活動しているところだと考える。

まずは、私が何故このような音楽ボランティアを行う事になったかを述べる。

私は、中学校で吹奏楽部、高校では合唱部に所属していた。吹奏楽部の時、一般の方が見に来る演奏会の後に「よかった！素晴らしい音楽を聞かせてもらったよ！」と仰っていただいた経験があり、その時から「もっと音楽で笑顔になってほしい」と思うようになった。しかし、吹奏楽部や合唱部は演奏そのものに重きを置くため、一般の方向けの演奏をする機会は多くない。そのため、もどかしい思いのまま高校を卒業した。大学1年生の春、サークルを探していた時に「音楽ボランティア」という言葉が気になって勧誘をしていた先輩に話を聞くと、「これが自分のやりたいことだ」と感じた。そうして、音楽ボランティアサークルに入ったのである。

次に具体的な活動でどんなことを学んだかを述べたいと思うが、新型コロナウイルスが流行する前後で大きく活動が変わってしまったため、先に新型コロナウイルスが流行する前の活動について述べる。

コロナが流行する前は、子ども会のクリスマス会や地域交流の場、その他の地域イベントでの演奏と楽器作り体験、熊本への復興支援にも伺っていた。

クリスマス会ではクリスマスソングの演奏と、牛乳パックとペットボトルキャップでのカスタネット作りを行った。カスタネット作りではサンタとトナカイの装飾ができるように用意をした。子どもが「サンタさんの目がかわいくかけたよ！」「トナカイの角はこの辺かな？」というように、工夫をしながら楽しそうに作ってくれていたのすごく嬉しかった。「こうすると大きい音が出る！」と私に教えてくれた子もいて、とても良い交流になった。

熊本での復興支援ボランティアでは、ホールでの演奏会も予定していたが台風の影響でなくなってしまった。それは残念だったが、仮設住宅に伺っての演奏では、お年寄りがお孫さんを連れてきてくだ

さった。たくさんの人が集まり、「今日は来てくれてありがとうね」「元気がもらえたよ」と言ってもらえ、熊本まで来てよかったと感じた。後日、サークル宛にお手紙もいただき、「それぞれが入居するアパートが決まった」という言葉を見たときには、自分の事のように安堵したのと同時に、「もうあの仮設住宅で、あの方々と会う事はできないんだ」という寂しさも感じた。サークル員全員で頑張って準備して、大変なこともあったが、充実した熊本での日々を過ごせた。この経験は私の人生の中でも特別なものになると思う。

次にコロナ禍での活動について述べる。大学から対面でのボランティア活動の許可が出ないので、諦めるのではなく、私たちは何ができるのかを考え続け、オンラインイベントへの積極的な参加と自分たち主催でのオンライン交流会をしている。

オンラインイベントはリモート合奏等の動画提出が多いが、リモートでもつながることができると思わせているのではないかと感じる。オンラインで他のボランティア団体と課題を共有したり、ボランティアについて考えたりすることも積極的にしている。どの団体もオンラインの厳しさを感じているのと同時に、諦めずに活動の可能性を探し続けていることに、私も頑張らねばと力をもらった。

オンライン交流会は、老人ホームや障がい者施設、その他の一般の方々を対象に行っている。私が1年生の時、「もっと色々な施設とつながりたい」「もっと音楽ボランティアの輪を広げたい」という話し合いをしていた矢先に新型コロナウイルスが見つかり、活動ができなくなってしまった。私は会長として「どうにかこの夢を叶えたい」「このまま受け身になっていても状況は変わらない」と思い、オンライン交流会を企画した。オンラインではタイムラグが発生するが、これは音楽の天敵である。しかし、その様な状況でも音楽を楽しむためにはどうすれば良いかをサークル員全員で試行錯誤しながら考えて、どうにか実行することができた。具体的には、テンポがゆっくりな音楽を扱う、ミュート機能を適宜利用しながら行う、事前に動画は作成しておくという対策を講じて行っている。この活動には、多くの方々が申し込みをしてくださり、たくさんの方とも交流ができていたので、実際に行うまでに時間はかかったが、苦労して良かったと心から感じる。体がうまく動かない人、歌が得意でない人等、様々な人がいるため、どんな人でも音楽を楽しめるように企画を考える。これはとても大変だが、画面越しに笑顔を見たり、一緒に歌ったり、リズムに合わせて手を叩いたり、体を動かしたりすることで、私たちも一緒に元気をもらえるのでとても良い時間となっている。「新型コロナウイルスの感染拡大が収まったら実際に来てほしい」と言ってくれる施設もあり、今後にもつながる活動ができていくことに会長として喜びを感じる。今はボランティア団体にとって厳しい状況にあると思うが、明星大学の音楽ボランティアが後輩たちにつながっていくように努力したい。

私たちが楽しく音楽をすることで笑顔になっていただき、歌や楽器の演奏ができない人も音楽を楽しみ、時間を共有することができる。このサークルに入ってからネットワークが広がり、相談に乗っていただいたり、疲れている時に元気をもらえたりするため、人の温かさをすごく感じるようになった。この人と人とのつながりも音楽ボランティアがつないだ縁である。

私はこの11月で引退になるが、今後もサークルが前に進めるようにサポートをしていきたい。そして、大学を卒業したら教師になろうと思っているが、ボランティアの大切さを忘れずに、生涯、音楽ボランティアを続けていきたい。